

エコアクション21

環境経営レポート

ミヨシ精機工業株式会社

1. 組織の概要及び対象範囲	P.2
2. 実施体制	P.3
3. 環境経営方針	P.4
4. 環境経営目標	P.5
5. 環境経営計画	P.6
6. 環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果、その 評価、並びに次年度の取組内容	P.7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	P.8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.8

運用期間：2021年4月1日 ～ 2022年3月31日

発行日：2022年5月12日

1.組織の概要

・事業所名 ミヨシ精機工業株式会社

・代表者氏名 田中 謙一郎

・所在地 東京都練馬区上石神井4-10-39
長野県上田市塩川5103-3

・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 小松 聖

担当者 朝比奈 進

連絡先 長野丸子工場

TEL 0268-36-4600

FAX 0268-36-4601

E-mail s-asahina@miyosho.co.jp

・サイト名称及び所在地

本社 東京都練馬区上石神井4-10-39

長野丸子工場 長野県上田市塩川5103-3

・事業活動の内容

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

・事業規模

売上 850,000千円

従業員 70 名

工場敷地(床面積)

本社 116.13m²

工場 2152.64m²

対象範囲(認証・登録範囲)

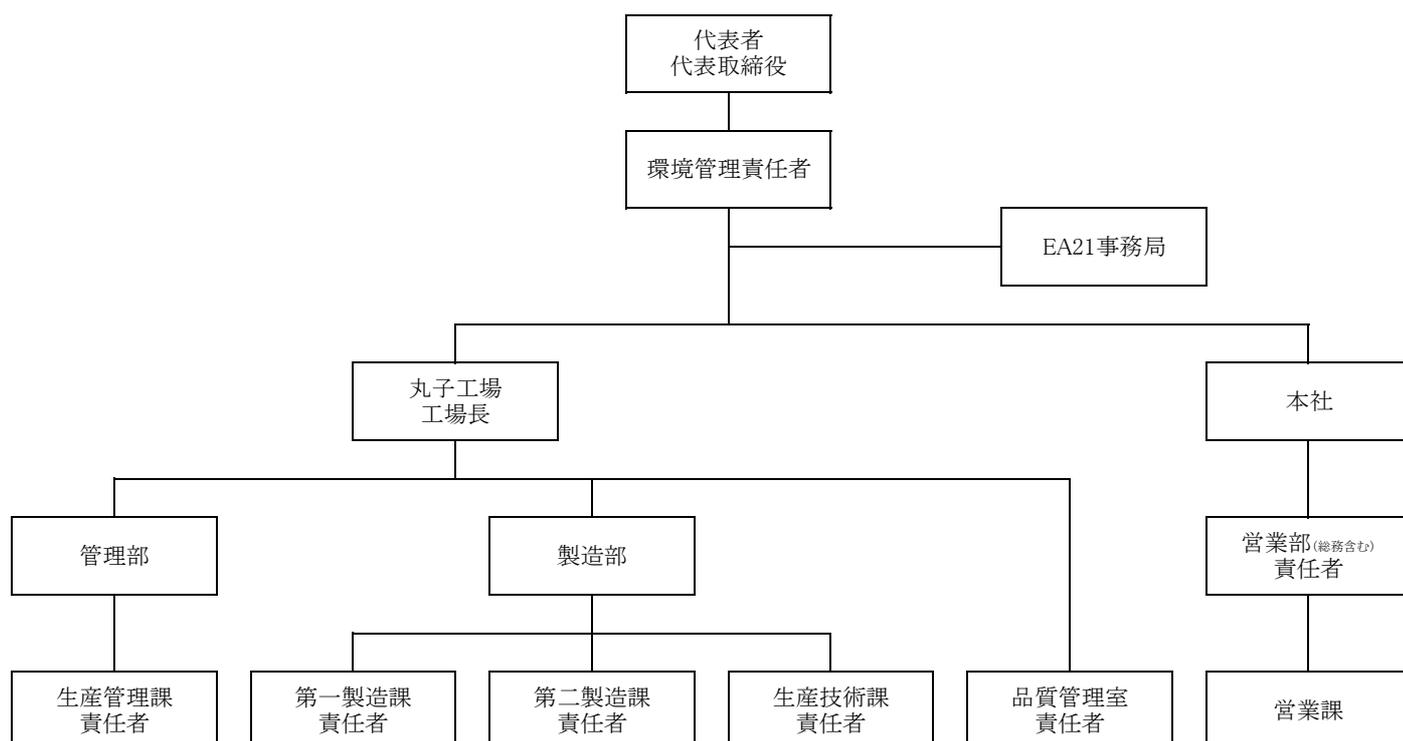
認証登録対象組織

本社、長野丸子工場

認証登録対象活動

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

EA21役割責任体系図



	役割・責任・権限
代表者	1.環境管理責任者の任命 2.環境方針の策定、制定、周知 3.環境経営システムの実施及び、管理に必要な資源の準備 4.環境経営システムの定期的見直しの実施 5.各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する 6.環境レポートの承認 7.経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
工場長	1.上記、代表者の補佐及び不在時の代理執行
環境管理責任者	1.環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2.社長への環境経営システムの実施状況報告 3.EA21事務局との連携 4.各部門への環境教育の計画、実施 5.関連法規の取りまとめ表の承認 6.環境関連文書及び記録の承認
EA21事務局	1.環境管理責任者の補佐 2.環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3.環境目標、環境活動計画書原案の作成 4.環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5.環境関連法規等、取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6.環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
部門責任者	1.自部門従事者に対して環境方針の周知、緊急事態に対する周知 2.関連する環境活動計画の実施、達成状況の報告 3.特定された項目の手順書作成及び、運用管理 4.自部門で想定された緊急事態への対応手順書作成、訓練の実施 5.自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門従事者	1.環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って行動する

環境経営方針

【企業理念】

当社は、地球環境保全の重要性を認識し、精密金属部品の製造を主とする事業活動を行う中で環境への配慮と環境汚染の予防に努め、地球にやさしい「ものづくり」に真摯に取り組み、地域だけではなく日本の未来の発展に寄与する企業として行動していきます。

【行動指針】

1. 環境負荷の低減を図るため、以下の活動に取り組みます。

(1) 省エネ（電気、燃料）を推進し

(2) 廃棄物の排出量を削減します。

二酸化炭素の排出量を削減します。

(SDGs 項目 12・14・15)



(3) 水の使用量を削減します。

(4) 化学物質を適正に管理します。

(SDGs 項目 6・14)

(SDGs 項目 4・12・14・15)



(5) グリーン購入を推進します。

(6) 5S 活動及び品質管理をリンクさせ、

(SDGs 項目 6・14)

環境に配慮した「ものづくり」を推進します。



2. EA21 環境経営システムを構築・運用し

3. 事業活動にあたっては環境関連法規等を

環境への取り組みを継続的に行います。

遵守します。



4. 環境経営方針はすべての従業員に周知します。



2020年3月25日

ミヨシ精機工業株式会社

田中 謙一郎

4.環境経営目標

※数値目標は売上按分にて集計

環境経営目標	基準(実績)	CO2換算係数	中期目標		
	2019年度 2019年4月～2020年3月		2021年度 2021年4月～2022年3月	2022年度 2022年4月～2023年3月	2023年度 2023年4月～2024年3月
1. 二酸化炭素排出量の削減	7.312 kg-CO ₂ /10K円		0.5%削減 7.275 kg-CO ₂ /10K円	1%削減 7.239 kg-CO ₂ /10K円	1.5%削減 7.202 kg-CO ₂ /10K円
1.1 電力使用量の削減	13.965 kWh/10K円 7.010 kg-CO ₂ /10K円	注(1)	0.53%削減 13.891 kWh/10K円 6.973 kg-CO ₂ /10K円	1.05%削減 13.818 kWh/10K円 6.937 kg-CO ₂ /10K円	1.57%削減 13.745 kWh/10K円 6.900 kg-CO ₂ /10K円
2.1 一般廃棄物排出量の削減	0.037 kg/10K円		0.5%削減 0.037 kg/10K円	1%削減 0.037 kg/10K円	1.5%削減 0.036 kg/10K円
2.2 産業廃棄物排出量の削減	0.765 kg/10K円		0.5%削減 0.761 kg/10K円	1%削減 0.758 kg/10K円	1.5%削減 0.754 kg/10K円
6.R社の客先クレーム件数低減	4 件		3 件以下	3 件以下	3 件以下

注(1) 基準年二酸化炭素排出係数: 本社は東京電力エナジーパートナーの0.468kg-CO₂/kWh使用、工場はダイヤモンドパワーの0.502kg-CO₂/kWh使用。

注(2) 産廃: 廃プラ、廃油(水溶性)、廃木、アルミスケール汚泥、研掃材モランダム～マニフェスト発行。

注(3) PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

注(4) 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、変則的な生産稼働となり実績にバラツキがあった。

そのため、今回は2019年度を基準に削減目標を設定する。

注(5) 項目6. R社の客先クレーム件数低減の基準については、2018年～2020年の平均数値で設定。

注(6) 一般廃棄物: 「可燃ごみ」のみ。リサイクル、再資源化するものは含まない。

注(7) 電力使用量は「工場電力」のみで、「本社電力」は含まない。二酸化炭素排出量は全社すべて含む。

5.環境経営計画・実施状況評価

基準年度(基準値):2019年4月～2020年3月

年0.5%削減

□:計画 ■:実績 評価:達成○ 未達×

No.	中期目標 (2023年度)	2021年度目標	施策	責任者	2021年												合計	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂ /10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 7.312 2021年度から2023年度 1.5%削減 7.202	基準値 7.312kg/10K円 ↓ 0.5%削減 7.275kg/10K円	・1.1に記載	小松	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画排出量	7.984	5.107	5.040	7.197	7.942	7.594	6.894	6.638	7.088	9.668	8.348	12.389	7.275
					実績排出量	6.999	7.768	5.860	6.875	8.372	6.892	8.458	7.906	0.292	0.685	0.714	0.395	4.906
					評価	○	×	×	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○
1.1	電力使用量の削減(kwh/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 13.965 2021年度から2023年度 1.57%削減 13.745	基準値 13.965kwh/10K円 ↓ 0.53%削減 13.891kwh/10K円	・休日の機械停止 コンプレッサー、NC旋盤	鈴木	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	14.791	9.972	9.928	14.068	15.577	14.853	13.545	12.758	12.976	17.775	15.125	23.536	13.891
					実績使用量	14.734	16.352	12.335	14.470	17.658	14.491	17.933	16.143	13.251	15.858	15.449	11.719	14.854
					評価	○	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	○	×
2.1	一般廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.037 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.036	基準値 0.037kg/10K円 ↓ 0.5%削減 0.037kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの 検討と運用	朝比奈	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	0.043	0.039	0.020	0.024	0.035	0.056	0.039	0.033	0.026	0.061	0.034	0.052	0.037
					実績使用量	0.035	0.033	0.030	0.059	0.017	0.039	0.043	0.022	0.037	0.027	0.026	0.026	0.033
					評価	○	○	×	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○
2.2	産業廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.765 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.754	基準値 0.765kg/10K円 ↓ 0.5%削減 0.761kg/10K円	・工程内不良削減 〔経営方針改善活動とリンク〕	鈴木	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	1.083	0.532	0.618	0.626	0.763	0.913	0.666	0.863	0.632	0.828	0.709	1.330	0.761
					実績使用量	0.937	1.414	0.710	0.464	0.239	0.542	0.396	0.257	0.465	0.529	0.270	0.251	0.529
					評価	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	R社クレーム件数低減(件数) 基準値:2018年度～2020年度平均 4 2021年度から通年 3件以下	基準値 4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業・セルフ チェックポイントの標準化	政木 金井 山寄	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画件数	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	3以下
					実績件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

6.環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

運用期間:2021年4月~2022年3月

評価: 達成○ 未達×

No.	環境経営目標	運用期間目標	施策	実績	評価	取組	
						コメント	次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	売上按分にて 0.5%削減 7.312 kg-CO2/10K円 ↓ 7.275 kg-CO2/10K円	・1.1に記載	4.906 kg-CO2 /10K円	○	12月から工場の電力購入先を変更し、排出係数をノンカーボンメニューにしたことにより、目標を大きく達成することが出来た。	今後も継続展開する。
1.1	電力使用量の削減	売上按分にて 0.53%削減 13.965kWh/10K円 ↓ 13.891kWh/10K円	・休日の機械停止 コンプレッサー、NC旋盤	14.854 kWh/10K円	×	機械装置に影響が出ないように休日停止する為の方法と効果を検討してきたが、年度内でコンプレッサーの休日停止ができなかった。(試行のみ) 目標を売上按分とした為、売上が想定より低い場合は、より生産効率を上げることが必要となる。	・圧縮エアの漏れ点検と漏れ箇所の補修を行う。 ・コンプレッサーの休日停止実施。 ・加工機を休日停止する為の体制作り。 ・段取待ち時間短縮→加工機オペレータの育成
2.1	一般廃棄物排出量の削減	売上按分にて 0.5%削減 0.0370kg/10K円 ↓ 0.0368kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル出来るもの 検討と運用	0.0329 kg/10K円	○	排出確認で、ミックス紙に分別できるものが散見された為、分別を徹底する為の検討を行った。モラダムの袋とコピー用紙については、次年度の取組に反映する。	・ミックス紙に分類できるものについて、注意喚起の表示を作成掲示する。 ・コピー用紙の裏紙利用、ミックス紙排出を促進する為、機密文書の定義と処理方法を再検討する。
2.2	産業廃棄物排出量の削減	売上按分にて 0.5%削減 0.765kg/10K円 ↓ 0.761kg/10K円	・工程内不良削減 経営方針改善活動とリンク	0.529 kg/10K円	○	廃プラの減量検討時、産廃業者にて排出量が体積換算されていることに注目し、排出重量を正確に把握する方法を検討した。廃プラの中でリサイクル出来るものが無いかを確認。	・廃プラの産廃業者を変更し、正確な排出重量を把握する。 (マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能)
6	R社クレーム件数低減(件数)	4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業 セルフチェックポイントの標準化	0件	○	流出防止から発生防止の活動が主になり、客先品質が向上している。	品質向上が環境にも配慮できることを踏まえ、取組みを継続していく。

※実績の二酸化炭素排出量の排出係数

本社:東京電力エナジーパートナーの0.441kg-CO2/kWh使用

工場:エフビットコミュニケーションズの0.468kg-CO2/kWh、2021年12月からエナリス(ノンカーボン)の0kg-CO2/kWh使用

※2021年度のCO2総排出量は417,004.8kg-CO2

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃油等)	○
騒音・振動規制法	コンプレッサー	○
水質汚濁防止法・浄化槽	排水、浄化槽	○
消防法(危険物)	少量危険物	○
フロン排出抑制法	エアコンの点検	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体評価と指示内容

二酸化炭素排出量は2021年12月ノンカーボンの電気事業者に変更したことにより大幅な削減に寄与しているため今後も継続したい。

2021年度の活動内容と2022年度 of 取組内容は良いと思うが、電力使用量の削減については、コロナ禍の影響で受注が回復していない状況では、在庫と不良を減らして生産効率を上げる施策がより重要になってくる。

また、従来の施策やエアコンの温度管理など、決めたルールの徹底及び管理をしてください。

廃棄物の削減では、再資源化は当然の事ながら、原点である排出量を減らす省資源でのものづくり、を皆で取り組んでほしい。

サプライチェーンに関わる取引先に、現状のやり方についての見直しを相談するような提案型の活動も検討してください。

半導体不足や物流の混乱による影響で受注の変動が大きかった為、目標値を単月売上按分だけではなく、3～4カ月毎でも検証するなど工夫をしてください。